

相生小学校 「学力向上実行プラン」

- 課題解決に向けて、身に付けた資質・能力を活用できる授業の実践
- 家庭と連携して、主体的に学習し新たな課題を見つけ学び続けようとする活動の実践

学力向上推進員 教諭 大建 香織	委員委員	校長・総括 教頭・総括補佐 教務主任 研修主任 特別支援コーディネーター	谷 多美子 宮本 和美 徳野 千寿 大建 香織 前田 智美 波戸 千聖
------------------------	------	--	--

校長
谷 多美子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】
管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取り組み状況について把握し、改善を図ったり、効果的な方法を共有したりする。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前時の振り返りの工夫や反復学習を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能が定着してきている。 ●言葉に対する児童の意識は高まっていると感ぜられるが、語彙力を増やす指導の工夫が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・話をしている人の方を向き、うなずきながら聞くことができる。 ・語彙力を増やし、より適切な言葉を用いて話したり、文章を読んだり書いたりすることができる。	・話し方・聞き方等の掲示物等の効果的な活用が学年間で差異があったので、年度始めに確認、共通理解を行うようにする。 ・学力テストやステップアップテストの結果・分析を活用した授業改善への取組を校内研修で組織的に行う。			

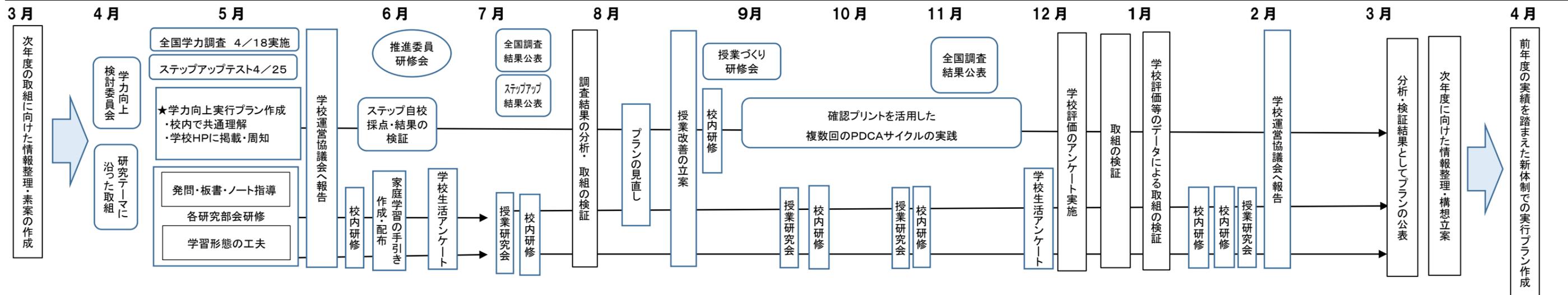
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話合うことや、自分の意見を理由や根拠を明確にして伝える事への児童の関心は高まっており、特別活動の研究の成果を授業改善に生かすことができた。 ●相手の話をよく聞き、相手の意見を受けて、つなげたりまとめたりする力が十分身につけていない。	・相手の話を最後まで聞き、自分の意見を理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめたりできる。 ・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく伝えることができる。	・各教科の育てる資質・能力を明確にし、評価と指導の一体化につながる授業研究を計画的にすすめる。 ・「徳島版読解力」の育成をめざし、協働学習を通して他者から考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現できるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題は、真面目に一生懸命取り組むことができる児童が多い。 ○夢や目標が決まっている児童が増えてきた。 ●半数以上の児童は、自主学習に意欲的に取り組む事ができるが、見通しをもち、計画的に学習を進める力については十分とは言えない。	・決められた課題だけでなく、学ぶことに興味や関心を持ち、自ら課題を見つけて計画を立て、主体的に学習に取り組んだり、話し合い活動等を通して学びを広げたり、深めたりする中で、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・学習した内容に関連する本や自分の興味・関心がある内容の本を進んで手に取り、読書に親しむことができる。	・「阿波っ子タイムズ」等児童にとって身近で興味のある教材を効果的に活用し、学習の意義と児童の目標とが関連付くように工夫する。 ・読書習慣の定着に向けて、読書推進の取組を継続していく。 ・自己有用感や自己指導能力の育成を主体的に学ぶ態度や技能につなげる。 ・学級だより等で具体的な学びの姿を発信し、成果と課題を学校と家庭で共有する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

